

たまがわ びと

多摩川流域の水と緑に深く関わっている方から、お話を伺うコーナーです。

第10回

関山 雅明さん (正一位舟島稲荷大明神 元講長)

幾百年の間、暴風雨、水害に見舞われ 度々境内を移してきました

「治水興農の守護神として自然と共に生きてきた、われら祖先の足跡とも考えられる」と石碑に刻まれています



ニヶ領用水取水宿河原堰は昭和24年(1949年)5月、それまでの竹蛇籠堰から、コンクリート固定堰になりました。堰の横にある正一位舟島稲荷大明神は、通称舟島杵稲荷社と呼ばれています。「杵」とは馬にはかせるゾウリの意で足を痛めた馬を労わった意があります。風邪(百日咳)をひいた子どもの家ではこのゾウリを出入口に飾り、お守りにしたそうで、風邪が治るとそのお礼に新調したゾウリを神社に奉納したと伝えられています。



「1493年道祖神猿田彦命を粕江に祀る。1591年大洪水で流れが変わり中の島となる。1659年にも水難で



エーテル辺に祀る。1786年の大水害で舟島となる。(船の形の島だったのでそう呼ばれた。現在もこの一帯を宿河原舟島の地番が使われている)1912年、1970年と社殿が改築される」と社殿横にある石碑に刻まれています。

子どものころは、カジカやアユもよく獲れました。元木茂さん(第9回たまがわびと)とは同級生。戦後からのまちな移り変わりと共に多摩川の変化も目の当たりに見てきました。ふるりの歴史の深さを思うに、舟島杵稲荷社とニヶ領せせらぎ館が、拠点となっていつまでも尊ばれ価値ある地となっていくことを期待します。

繋がる、広がる
多摩川の輪

Vol.10

丸子の渡し祭り [11月9日]

丸子の渡しの歴史は古く、平安・鎌倉・室町の記録があるそうです。このような歴史の渡しが「丸子の渡し復活協議会」の主催で開催されました。渡しは江戸の下丸子村と武蔵国上丸子を結ぶ中原街道の重要な役割を果たしていました。70年ぶりに川崎市と大田区を渡る日を迎え、乗船した人たちは皆さん「楽しかった。感激した」と喜んでいました。

とどろき水辺の楽校

丸子の渡し祭りの事務局ともなった「とどろき水辺の楽校」は 御前大楽校長(NPO法人理事長)のもと多摩川全体から海までを活動フィールドとしており、今年で11年目を迎えています。卒業生も来校しての楽しい活動が繰り広げられています。下期後半の活動は12月の野鳥観察、1月の凧上げと昔遊び、3月の多摩川クリーンアップ作戦と続きます。アクセスは等々力緑地を過ぎ保育園横の歩道を渡り、多摩川河川敷のエノキ前に集合です。



編集後記

今年秋は少ないように感じます。日々寒くなって来ましたが、これからの季節は、鍋料理が楽しみになってきます。鍋は誰か鍋奉行が居て仕切るのが一番です。我々が行っているイベントも同じようなもので、誰か仕切の人がいてそれにみんなが協力するとうまくいくように思います。今回の編集後記は自称「マッサン」が書きましたが、好調な朝ドラ「マッサン」のようにせせらぎ館のイベントもなるといいのですが! 皆さん来てください。



ニヶ領せせらぎ館

- アクセス
JR南武線・小田急 登戸駅 徒歩10分
JR南武線 宿河原駅 徒歩15分
※駐車場はありませんので、車のご来場はご遠慮願います。
- 開園時間
午前10:00~午後4:00
6月~9月の土・日・祝日
午前10:00~午後5:00
- 休館日
毎週月曜日
(月曜が祝日の場合はその翌日)